

美深高校70周年

記念インタビュー



70周年記念インタビュー第3回は本校が大変お世話になっている、北海道教育庁上川教育局長の中島康則さんです。お忙しい中メールにてインタビューに答えていただきました。

（高校の思い出）

私は、昭和33年生まれ、本年でちょうど60歳になります。

高校は昭和52年卒業です。出身は音威子府村であり毎日JRで通っていました。

当時は1学年4クラスでしたが、その数年前までは6クラスだったと記憶しています。現在の状況を考えると寂しい気持ちになりますが、昨年、学校に寄りましたら、明るく楽しく談笑しながら帰って行く生徒さんを見て、人数は少なくとも充実した学校生活が垣間見られて、この学校のOBとしてうれしく誇らしい気持ちがわき上がってきました。

学生時代は帰宅部で3年間をなんとなく過ごしてしまった感じです。昼休みは学校を抜け出し、放課後も友達の家でだらだらしていた記憶があります。きっと良い生徒ではなかったろうと思います。ただ、時には友達の家へ寄り、バンド（ギター）の練習をして公民館で演奏したこともあり、良い思い出です。

勉強については、唯一、テストの前の日だけ友達の家や自宅を順番に回り朝まで勉強？（睡眠学習）し、それは3年間欠かさない楽しい行事でした。

（経歴・現在の状況）

高校卒業後、初めて受験勉強というものを味わい2年かけて希望の大学に入りました。卒業後は高校の教員をちょっとした後、自分には荷が重いという思いもあり大病を機に退職し、行政公務員（北海道教育委員会）となりました。これまで、岩見沢、札幌、函館、倶知安と各地を転々としてきましたが、最後の最後に出身の上川教育局勤務を命ぜられましたのも、何かの縁と感じています。

仕事柄道立学校の校長と話す機会が多いのですが、数年前校長面談の際、その方が高校時代社会科を習った平田先生であることがわかり驚いたことがありました。当時は教育大学卒業したてのまだ学生気分を残した先生でした。あるとき隣町でぶらぶらしていた時に道でバッタリ会ってしまい、怒られるかなと思ったら、逆に喫茶店でホットケーキセットをごちそうになりました。それが外で初めて食べたホットケーキで、感動したのを覚えています。ちなみに本人は全く覚えておらず、私自身そのように影の薄い生徒であったと思います。



（美高生に期待すること）

そんな学生でしたので、今更偉そうにアドバイスなどおこがましいのですが、今や高校の意義は大きく変わりつつあります。これまでは社会人としてあるいは進学のための専門的知識・技能などを習得する場でありましたが、今やそれだけにはとどまらず、地方創生、北海道を元気にする重要な場となっています。僭越ながら美高生に期待することは、3年間充実した学校生活を送りながら社会を切り拓く力を身につけ、卒業後は美深などそれぞれの地元において地域活性化に力を注いでいただきたいと切に願っています。カムバックサーモン！